



本格的な冬を感じられる季節になり、早いもので今年も残りわずかとなりました。今年は新型コロナウイルスの影響が大きく、例年とは違う一年となりましたが、保護者の皆様には、たくさんのご理解とご協力ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

先日、うさぎ組さんと一緒にマラソンをした際、年少さんの走りがとても力強く、顔つきもお兄さん、お姉さんの顔に見えました。4月の頃はまだまだ幼かった子どもたちですが、この一年で一人ひとりの子どもたちが、体も心も大きく成長したんだなと思いました。この頃は、自分の思いが通らず、友だちと喧嘩になることはありますが、友だちと遊ぶことの楽しさを味わっていることが、色々な遊びを通して感じられるようになりました。

今、子どもたちがはまっている遊びは、鬼ごっこ（しゃもじ鬼）、島鬼、しっぽ取り、雲梯、かるた、トランプ、おえかきコマ回し、はないちもんめ、ぼたんぼたんなどです。しゃもじ鬼というのは、鬼ごっこをしていた際に、たまたま落ちていたままごとのしゃもじを拾って「これ持ってる人が鬼にしよう!」という事で始まりました。普通の鬼ごっこは、誰が鬼なのか分かりにくいですが、これだとしゃもじを持っている人を探せば一目瞭然です。この頃は年少さんたちも自分たちで集まって、ジャンケンをして鬼を決めるようになり、これもまた大きな成長の一つだと思います。

又、先週、積木遊びをしました。初めの頃は、友だちが傍にいても自分だけの世界で遊ぶことが多かったのですが、どのグループも友だちとかかわりながら「ここは、こうしようか!」「おっ!いいね!」などと楽しそうにおしゃべりしながら、時には意見が食い違ってもめたりしながらも夢中になって友だちと遊ぶ姿に「大きくなったなあ」と一人でウルウルしました。(笑)

あと3ヶ月、子どもたち一人ひとりが安心して園生活を送れているかを確認しながら、心理的な安心感、つまり「保護されている」「見守られている」「愛されている」「自分の思いが出せる」「楽しさや喜びがある」「認められる」という実感が味わえるようかかわっていきたいと思います。

今年一年、大変お世話になりました。ご協力ありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願い致します。良いお年をお迎えください。

子どもたちのいい顔を紹介します!



12月号「ないおん」にこんな記事が載っていました。

「日常生活にじゃんけんを・・・」

「グー・チョキ・パー」これには庶民の歴史を感じます。コインを投げて、裏か表かで何かを決める運命的な二元論ではなく「グー・チョキ・パー」は三元論です。それぞれが強い面を持っています。

子どもは2歳頃から、このジャンケンをしたがります。もちろん機会を大人が作り、かかわることが大切です。勝ち負けはその後4歳頃から、この三元論の説得性を次第に理解するようになります。ただ勝ちたい気持ちの方が強いので、後出しなどの知恵を働かせます。しかし、このじゃんけん三元論を否定することなく、100%受け入れます。世界共通、このことも凄いと感じています。

お正月には、ご家族で「かるた」「トランプ」「百人一首」「福笑い」「みかん刺し」「すごろく」などの昔の遊びを楽しんでみてください。スタートは「じゃんけん」から。日常の生活にも、もっと、もっとじゃんけんを取り入れ、コミュニケーションの環境を作って頂けたらと思います。色々なドラマがうまれそうです。「ママはいつも最初、パーを出すよ!」なんて見透かされないように・・・

コロナ禍で不安や心配はつきませんが、新しい年が安穏な一年になりますように。

「子どもの心のコーチング」菅原裕子著（PHP文庫）

子どもを良い子に育てたい・・・そう考えるあまり、声をかけ、世話をやきすぎて、依存心の強い自立できない子どもが増えているといえます。しかし、子どもの将来を思うなら、自分で考える力、周りの人とうまくやっていける本物の「生きる力」を身につけさせるのが親の務めです。

以前、志岐小学校就学時健診の講演会でお話されたものです。



- ① 愛だけが自己肯定感を育てる
- ② 「甘えを受け入れる」と「甘やかす」は違う
- ③ 愛を教える母性と責任を教える父性
- ④ 朝起こさないことから始めよう
- ⑤ 親は叱っているのではなく、自分の都合で怒っている
- ⑥ 人の役に立つ喜びこそ副作用のないやる気の種
～「えらいね」とほめるより「ありがとう」がいい!
- ⑦ 共感したとき、子どもは自ら動きたくなる
- ⑧ どう生活するか、まず親が「枠組み」をはっきり示す
- ⑨ ダメな事を言えば言うほどダメになる
- ⑩ 子どもを自己実現の道具にしないで
- ⑪ 子どもは完ぺきな親を求めているわけではない
- ⑫ 褒めると脳が喜ぶ! 情緒が安定します!